

## なぜ私たちは火山を知る必要があるのか

前々回のジオパーク通信では、火砕流についてふれましたが、今回は、「なぜ火山を知る必要があるのか」について、コロンビアで起きた噴火災害の事例をもとに伝えていきたいと思えます。

### ① 1985 年コロンビアでの事例



コロンビアのネバド・デル・ルイス火山は、山頂部が氷河で覆われた、標高 5,399 ㍎の高い山です。1985 年 11 月、ここで噴火が始まりました。

◁南アメリカ大陸地図

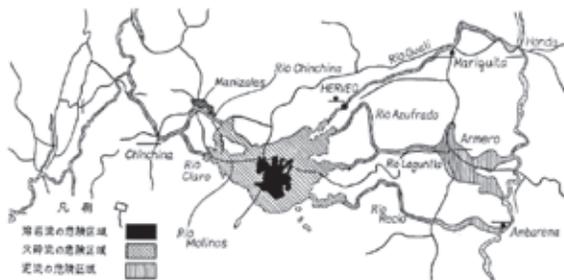
### ②融雪型火山泥流が発生



泥流によって埋まった地域 (藤井・池谷 1986)

火砕流や火砕サージが大量の雪氷を溶かし、噴火開始から約 8 時間後、大規模な泥流が発生。山麓のアルメロ市やマリキタ市などを襲いました。

### ③ハザードマップは噴火前に作られていた



ネバド・デル・ルイス火山の防災マップ (藤井・池谷 1986)

ハザードマップがあったにも関わらず、多くの住民が危険地区に残ったため、泥流による犠牲者が **2.3 万人** を超える大災害となりました。

### ④噴火災害から身を守るために



火山の噴火では火砕流や泥流などの危険な現象が発生します。災害から身を守るためにも、ハザードマップなどの情報を確認し、火山をよく知ることが大切です。

## 第 10 回日本ジオパーク全国大会 2019 おおいた大会が開催されました

2019 年 11 月に大分県で日本ジオパーク全国大会が開催されました。大分県には 2 つのジオパークがあり、火山活動で生まれた大地や島々を見ることができます。洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会では、ポスター発表やブース展示を通じ、ジオパークの取り組みを紹介しました。

大会では「(見どころの) 保全」「ガイド活動」「ユニバーサルデザイン」などの分科会や、実験ブースも設けられ、多くの参加者が各地の取り組みを学び合う 3 日間となりました。



おおいた姫島ジオパーク  
観音崎



おおいた豊後大野ジオパーク  
原尻の滝



ブースでの PR



岩石標本作りなどの  
体験ブースも多数出展